

令和5年度

武蔵野市一二小地域こども館一二小こどもクラブ

第三者評価結果報告書

武蔵野市こどもクラブ 第三者評価

I 評価概要

(1) 評価対象

評価施設 武蔵野市—二小地域こども館—二小こどもクラブ

(2) 評価機関

株式会社 日本生活介護

(3) 評価日程

令和5年12月8日～令和6年3月28日

訪問調査日 令和6年2月2日

II 評価方法

(1) 評価結果の構成

・評価結果は、利用者の声を聞く「利用者調査」と事業者の自己評価をもとに評価者が分析した「事業評価」の結果で構成されます。
・利用者調査結果は、各評価項目の回答状況で表します。
・事業評価結果は、全体の評価講評(「特に良いと思う点」、「さらなる改善が望まれる点」)、事業者が特に力を入れている取り組み及び各評価項目についての評点及び講評で表します。

(2) 事業評価の表し方

事業評価は4つのカテゴリーに分けて評価する仕組みになっています。

【カテゴリーの構成】

I 育成支援の基本方針と組織

- 1 理念・基本方針
- 2 運営状況の把握
- 3 事業計画の策定
- 4 育成支援の質の向上への組織的・計画的な取り組み

II 組織の運営管理

- 1 管理者の責任とリーダーシップ
- 2 福祉人材の確保・育成
- 3 運営の透明性の確保
- 4 地域との交流、地域貢献

III 適切な育成支援の実施

- 1 利用者本位の育成支援
- 2 育成支援の質の確保

IV 育成支援

- 1 子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備
- 2 学童クラブにおける育成支援
- 3 子ども一人ひとりと集団全体の生活を豊かにする育成支援
- 4 固有の援助を必要とする子どもへの適切な育成支援
- 5 適切なおやつを提供
- 6 安全と衛生の確保
- 7 保護者・学校との連携

●カテゴリーの評点

各評価項目はその評価項目に属する1～7個の標準項目(※)について、実施が確認できたものを「あり」、実施が確認できないものを「なし」で表し、それらを並べたものが評点です。
※標準項目は、武蔵野市が福祉サービスの質の向上を図る観点から、標準的に実施していることが必要であると認められる事項、または実施するための仕組みがあることが必要であると認められる事項を基本とし、学童クラブとして必要とされる標準的な評価項目で構成しています。なお、標準項目を確認できたとすることができるのは、①事業者が当該事項を実施していること、②その実施が継続的(必要性を認識し、計画的)であること、③その根拠が示せることを充足した場合です。

●講評

評点だけでは、実際のサービスの具体的な状況や、それぞれの事業者が工夫している多様な取り組みを説明できないため、評点では表現しきれない事業者の実態や課題、サービスの現状等については、「講評」欄に記載されています。

Ⅰ. 組織マネジメント項目（カテゴリーⅠ～Ⅲ）

カテゴリーⅠ. 育成支援の基本方針と組織

サブカテゴリーⅠ-1

理念・基本方針

評価項目 Ⅰ-1- (1)		評点 (○)	
理念・基本方針、基本方針が確立・周知されている			
評価	標準項目		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	理念、基本方針が明文化され、周知が図られている	

サブカテゴリーⅠ-2

運営状況の把握

評価項目 Ⅰ-2- (1)		評点 (○○)	
経営環境の変化等に対応している			
評価	標準項目		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	事業経営を取り巻く環境と経営状況が的確に把握・分析されている	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	運営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている	

サブカテゴリーⅠ-3

事業計画の策定

評価項目 Ⅰ-3- (1)		評点 (○○)	
中・長期的なビジョンと計画が明確にされている			
評価	標準項目		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	中・長期的なビジョンを踏まえた単年度の計画が策定されている	

評価項目 Ⅰ-3- (2)		評点 (○○)	
事業計画が適切に策定されている			
評価	標準項目		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している	

サブカテゴリーⅠ-4

事業計画の策定

評価項目 Ⅰ-4- (1)		評点 (○○)	
質の向上に向けた取り組みが組織的・計画的に行われている			
評価	標準項目		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	学童クラブの質の向上に向けた取り組みが組織的に行われ、機能している	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	評価結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している	

カテゴリーⅠの講評

武蔵野市の学童クラブは、子どもの健全育成に対する方針を明確にし、武蔵野市学童クラブ育成指針を策定している

武蔵野市の学童クラブは、児童の健全育成に対する方針を明確にし、事業の充実を図るために武蔵野市学童クラブ育成指針を策定している。この指針は職員や保護者に周知され、ホームページで公開されている。また、職員には育成指針を配布し、育成委員会で確認することで、理念と基本方針の浸透を図っている。職員は、日々の業務において、育成指針に基づいた適切な支援を提供できるようになっている。市全体では武蔵野市第六期長期計画を策定し、5か年計画である第五次子どもプラン武蔵野に基づき事業を実施している。協会では第五次子どもプラン武蔵野を基に作成した中期計画を明確にし、人材育成や運営課題の解決に取り組んでいる。市と子ども協会事務局の定例会議を設け、運営状況の把握と課題の共有を図っている。

職員が課題や目標を議論し、施設ごとに年間計画を作成し、半期ごとに目標の進捗を振り返り、自己評価や見直しを行っている

市は、第五次子どもプラン武蔵野に基づき、令和2年度から6年度までの計画を策定している。業務状況報告にて年度ごとの進捗状況を確認している。協会も事業趣旨に基づき、中期計画を策定し、年度ごとの事業計画を策定している。職員が課題や目標を議論し、施設ごとに年間計画を作成し、半期ごとに目標の進捗を振り返り、自己評価や見直しを行っている。保護者には年間の行事や面談の日程を伝え、子どもたちには行事について周知し、子どもが主導で行事を進められるようにしている。全職員が定期的に課題を確認し、改善活動につなげている。施設ごとの中・長期的計画と進捗状況の意識が弱いことから、今後は現場職員も含めた意見交換や説明会を通じて計画の見直しを進める必要がある。

アドバイザーや育成相談員が定期的に巡回し、育成支援の改善に向けたアドバイスをを行っている

市では、長期計画や子どもプランを毎年確認し、保護者アンケートを通じて市民ニーズを把握し、民間学童誘致などの施策に反映している。令和4年から第三者評価も取り入れている。協会ではアドバイザー、市では育成相談員が定期的に巡回し、育成支援の改善に向けたアドバイスをを行っている。育成委員会や障害児委員会で課題点を共有し、改善策を検討・実施している。特に、育成相談員は臨床発達心理士等の資格を有し市が委嘱しており、アドバイザーは元保育園長・児童館・および地域子ども館館長経験を持ち、協会が契約をしている。ただし、児童数増に対応する育成スペースや人員の確保が改善すべき課題として挙げられる。

カテゴリー II. 組織の運営管理

サブカテゴリー II-1

管理者の責任とリーダーシップ

評価項目 II-1- (1)		管理者の責任が明確にされている		評点 (〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	児童青少年課・子ども協会・館長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し、理解を図っている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている		
評価項目 II-1- (2)		館長のリーダーシップが発揮されている		評点 (〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	学童クラブの質の向上に意欲を持ち、その取り組みに指導力を発揮している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している		

サブカテゴリー II-2

福祉人材の確保・育成

評価項目 II-2- (1)		福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている		評点 (〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	総合的な人事管理が行われている		
評価項目 II-2- (2)		職員の就業状況に配慮がなされている		評点 (〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる		
評価項目 II-2- (3)		職員の質の向上に向けた体制が確立されている		評点 (〇〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③	職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている		
評価項目 II-2- (4)		子どもや保護者等が意見等を述べやすい体制が確保されている		評点 (〇〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	子どもや保護者等が相談や意見を述べやすい環境を整備し、子どもや保護者等に周知している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③	子どもや保護者等からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している		

サブカテゴリ II-3

管理者の責任とリーダーシップ

評価項目 II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている		評点 (〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	運営の透明性を確保するための情報公開が行われている
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている

サブカテゴリ II-4

地域との交流、地域貢献

評価項目 II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている		評点 (〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	学童クラブと地域との交流を広げるための取組を行っている
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評価項目 II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている		評点 (〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	学童クラブとして必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている

評価項目 II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている		評点 (〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	地域の福祉ニーズに基づく公益的な事業・活動が行われている

カテゴリ II の講評

学童クラブ条例、学童クラブ育成指針を基に、学童クラブの役割と責任を明確にしている
市では、学童クラブ条例、学童クラブ育成指針を基に、学童クラブの役割と責任を明確にし、業務委託を仕様書で定めている。協会では、児童福祉法などの法令を理解するために職員が定期的に指針解説書読み合わせをするように促している。館長は地域子ども館の統括者として、事業計画や安全管理、外部機関や地域連携を担当し、組織の統括と連携強化に努めている。定期的な館ミーティングや人事評価制度を通じて、情報共有や人材育成を行っている。ただし、館長としてはあそべえと学童クラブの連携に努めているが、児童数や場所の距離から、緊急時の連絡や相談体制の改善が望まれる。
支援単位に応じて採用計画を立て、養成学校や専門学校へ積極的に情報発信し、人材確保に努めている
協会では、支援単位に応じて採用計画を立て、養成学校や専門学校へ積極的に情報発信し、人材確保に努めている。内定後には施設見学や懇談会、採用後に複数回の面談を行い、内定辞退や早期退職を防止している。また、人材育成方針を設け、職員像や専門性、マネジメント能力を明確化し、人事評価制度を導入して適切な評価と育成に取り組んでいる。また、毎年度の面談や専門研修、館内研修、ブロック研修を重視し、職員の学びの機会を充実させている。ただし、児童数の増加により支援単位の増設が続き、職員募集の頻度が増えているため、更なる広報活動や長期的な育成体制の整備が必要と思われる。
市公式ホームページで保護者アンケートの結果を公表し、推進会議では学校や地域関係者に報告している
市公式ホームページを通じて市政情報や保護者アンケートの結果を公表し、地域子ども館推進会議では学校や地域関係者に報告している。一方、協会では定期的な会計監査を受け、適正な経理管理に努めている。これらの対応は公正で透明性の高い経営・運営を実現するための重要な要素である。あそべえとの連携や地域との交流にも注力しており、推進会議や大規模なイベントでは地域の方やPTAからのボランティア協力を得ている。また、子育て支援ネットワークへの参加や学校との定期的な打ち合わせにより、情報共有や連携を図っている。地域の理解を深めるために地域の行事に参加し、交流を図っている点は評価できるが、推進会議の頻度が年3回と少なく、地域の行事予定の情報不足や館の行事を地域に伝える機会が不足しているようである。

カテゴリーⅢ. 適切な育成支援の実施

サブカテゴリーⅢ-1

利用者本位の育成支援

評価項目 Ⅲ-1- (1)			子どもや保護者等を尊重する姿勢が明示されている	評点 (〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	子どもや保護者等を尊重した育成支援について共通の理解を持つための取組を行っている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	子どもや保護者等のプライバシー保護に配慮した育成支援が行われている		
評価項目 Ⅲ-1- (2)				
育成支援の提供に関する説明と同意 (自己決定) が適切に行われている				評点 (〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	利用希望者に対して学童クラブ選択に必要な情報を積極的に提供している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	学童クラブの利用開始・変更にあたり、子どもや保護者等にわかりやすく説明している		
評価項目 Ⅲ-1- (3)				
子どもや保護者等の満足の向上に努めている				評点 (〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	子どもや保護者等の満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている		
評価項目 Ⅲ-1- (4)				
子どもや保護者等が意見等を述べやすい体制が確保されている				評点 (〇〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	子どもや保護者等が相談や意見を述べやすい環境を整備し、子どもや保護者等に周知している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③	子どもや保護者等からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している		
評価項目 Ⅲ-1- (5)				
安心・安全な育成支援のための組織的な取組が行われている				評点 (〇〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	安心・安全な育成支援を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③	事故・災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている		

サブカテゴリⅢ-2

育成支援の質の確保

評価項目 Ⅲ-2- (1)		提供する育成支援の標準的な実施方法が確立している		評点 (〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	育成支援について標準的な実施方法が文書化され、育成支援が提供されている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している		
評価項目 Ⅲ-2- (2)		子どもに対する育成支援の計画が策定されている		評点 (〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	育成支援の計画を適切に策定している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	定期的に育成支援の計画の評価・見直しを行っている		
評価項目 Ⅲ-2- (3)		育成支援実施の記録が適切に行われている		評点 (〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	子どもに関する育成支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	子どもや保護者等に関する記録の管理体制が確立している		
カテゴリⅢの講評				
保護者会や個人面談で様子や成長、クラブの活動について説明し、個人情報適切に管理している				
子どもと保護者のプライバシーを尊重した育成支援が行われている。保護者会や個人面談で子どもの様子や成長、クラブの活動について説明し、個人情報を適切に管理している。年に一度、職員と親子の交流会を実施して親睦を図っている。学童クラブ入会申請に必要な情報を提供し、入会案内を市公式ホームページで公開し、各館ごとに対面形式の入会説明会を実施している。保護者アンケートで意向や要望を把握し、満足度向上を図っている。苦情解決の仕組みを確立し、相談や意見を述べやすい環境を整備している。組織的かつ迅速な対応を心掛け、市長への手紙や問い合わせフォームを通じて意見を受け付け、審査請求の仕組みも周知されている。				
安全計画に基づいた支援提供が行われ、事故報告書やヒヤリハット報告書を通じて再発防止に努めている				
安全管理マニュアル・安全計画に基づいた支援提供が行われ、事故報告書やヒヤリハット報告書を通じて再発防止に努めている。また、感染状況に応じた情報提供や保護者への対応が行われ、子どもの安全確保が図られている。さらに、定期的な避難訓練や地域全体の安全面の確認が行われ、安全意識の向上に努めている。保護者とのコミュニケーションに力を入れており、入会説明会から個人面談まで様々な機会に保護者との対話を図っている。保護者の声が直接職員に届きやすい環境が整備されている。一方、子どもの発育や学習状況を把握し、適切な支援を行うためには、十分なコミュニケーションの場が必要で、スペースの拡充や時間の確保が望まれる。				
学童クラブ業務に関する手引きやおやつ提供マニュアルを作成し、市の指針や解説書を読み合わせている				
学童クラブ業務に関する手引きやおやつ提供マニュアルを作成し、市の指針や解説書を読み合わせるなどの取り組みを行っている。また、定期的に館長会議や主任会議、支援員会議、障害児委員会、育成委員会を開催し、見直しや改善を図っている。育成支援の計画については、年間計画を策定し、自己評価や振り返りを行い、達成状況や課題を把握して来期に繋げている。専門的な問題に関して委員会やワーキンググループで話し合い、必要に応じてマニュアルの再検討を行っている。一方、育成やおやつ提供については、各館ごとに細かい点で異なるところがあり、ある程度統一する必要がある。				

育成支援（カテゴリーⅣ）

サブカテゴリーⅣ-1

子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備

評価項目 Ⅳ-1- (1)		評点 (〇〇)
子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境を整備している		
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	室内のレイアウトや装飾等にも配慮し、子どもが心地よく過ごせるような生活環境づくりに取り組んでいる
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	子どもが宿題や読書、自習等の学習活動を自主的に行える環境づくりに取り組んでいる

カテゴリーⅣ-1の講評

<p>子どもたちが自分の居場所として落ち着いて過ごせる環境が整えられている</p> <p>全体の人数を3つの支援単位に分けそれぞれが落ち着いて過ごし、自由時間になると他の部屋に行き来できる環境が整っている。各支援単位は学年がバランスよく分けられており、異なる年齢層が協力し合える環境が作られている。職員同士の連携も密に取られている。季節ごとの装飾や、継続的な遊びについても掲示物で確認できるようになっており、子どもたちが楽しみながら成長できるような環境が整っているといえる。在籍する児童数が増加傾向にあるため、子どものスペースの確保が課題となっている。来年度に向けて、スペース確保に対する適切な対策を期待したい。</p>
<p>宿題や読書など、静かに過ごす時間が設けられ、子どもたちが自主的に取り組む環境が整備されている</p> <p>一日の流れの中で、全員が静かに座る時間を作ることで、宿題や勉強が落ち着いて取り組める環境を提供している。各部屋には座卓が備えられており、それぞれの机で取り組めるようになっている。宿題の個別指導は行われていないが、子どもの様子は職員が確認し、子どもたちが自主的に取り組む習慣が身につくように支援している。宿題などやりたくない子どもには職員が声かけをして静かに過ごすよう話しかけている。各部屋に本が設けられている他、図書館からの団体貸しも利用している。本の数が充実しているため、読書の時間に充てる子どもたちもいる。</p>

サブカテゴリⅣ-2

学童クラブにおける育成支援

評価項目 Ⅳ-2- (1)		評点 (〇〇)
子どもが学童クラブに自ら進んで通い続けられるように援助している		
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	学童クラブに通う必要性を子どもが理解できるよう保護者とともに援助し、放課後及び学校休業日の生活の場として、一人ひとりの子どもが尊重され、安心してのびのびと過ごせる場となるよう配慮している
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	新入会の子どもについては、利用者の開始前に子どもや家庭の状況、保護者の希望を聴き取るとともに、学童クラブでの過ごし方について伝え、保護者と情報交換している

評価項目 Ⅳ-2- (2)		評点 (〇)
子どもの出欠席を把握し、適切に援助している		
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	出欠席、登所、退所等についての報告は保護者から直接受け、子どもの所在を把握している

カテゴリⅣ-2の講評

<p>子どもたちに学童クラブの必要性を伝え、毎日楽しく通える工夫をしている</p> <p>子どもたちには学童クラブへ通うことで保護者が安心して働けることや、学童クラブが安心・安全な場所であることを伝えている。困ったことがあれば気軽に相談でき、職員からも常に声かけをするよう努めている。職員が季節感のあるイベントや工作、上達を楽しむ遊びなど工夫し、子どもたちが毎日楽しく飽きずに過ごせるようなプログラムを提供している。学童クラブが子どもたちにとって魅力的な場所となっている。上級生を中心にした話し合いの時間を設け、職員が子どもたちの自主性を引き出すような援助をし、成功体験を通じて子どもたちが成長できるよう支援している。</p>
<p>学童クラブの利用前に家庭の状況を把握し、安心して預けられるよう保護者と情報交換をしている</p> <p>入会前には、子どもや家庭の状況を詳しく確認し、学童クラブの過ごし方について情報交換を行うことで、安心感を提供している。入会説明会では、学童クラブの様子や運営方針を分かりやすく伝え、保護者が子どもを安心して通わせられるように心掛けている。緊急時や退会についても知らせている。資料の冒頭には問い合わせについての記述があり、安心感を重視している。不安があれば個別で対応し、入会案内も分かりやすく工夫されている。入会後は年に数回の保護者会が開催され、そのほかに希望者には個人面談が行われていることも伝えている。</p>
<p>報告は保護者から直接受け、出欠席や退所時間については連絡帳や電話を通じて共有されている</p> <p>子どもの出欠席に関する確実な管理と適切な援助が行われている。報告は保護者から直接受け、出欠席や退所時間については連絡帳や電話を通じて共有されている。子どもたちが帰ってくると、職員と顔を合わせて挨拶し、すぐに連絡帳を提出してもらう。ホワイトボードには帰りの時刻やその他の重要な事項が記入され、出席簿に転記される。出欠席の管理はダブルチェックする仕組みになっている。出席が予定されていた子どもが来ない場合は、学校へ確認を取ることや、保護者への連絡を通じて所在を確認し、日々漏れの無いように管理している。</p>

サブカテゴリⅣ-3

子ども一人ひとりと集団全体の生活を豊かにする育成支援

評価項目 Ⅳ-3- (1)		評点 (○)
子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるように援助している		
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	子ども自身が見通しをもって主体的に過ごせるよう、全体に共通にする生活時間の区切りをつくり、放課後等の時間を自己管理できるように支援している

カテゴリⅣ-3- (1) の講評

<p>子どもたちは学童クラブのスケジュールを確認することで、見通しを持った過ごし方ができている</p> <p>子どもたちが自身の時間を管理し、見通しを持って主体的に過ごせるように、全体に共通する生活時間の区切りを作っている。リーダー職員によるミーティングでは、育成の流れや時間に関する事項が確認され、各クラスに戻ってそれぞれのホワイトボードに書き込まれ、掲示されている。子どもたちは日々のスケジュールや活動の進捗について把握しやすくなり、見通しを持って自分の時間を管理できる環境が整っている。また、大切な予定や連絡事項に関しては、職員全員でのミーティングが行われ、情報共有が行われ、子どもたちに伝えられている。</p>

評価項目 Ⅳ-3- (2)		評点 (○○)
日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるように援助している		
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	あいさつや自分のことは自分で行う等の基本的な生活習慣が身に付き、自立につながるよう支援する
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	子どもが協力し合って学童クラブの生活を維持していくことができるよう、集団で過ごすという特性を踏まえて、一緒に過ごす上で求められる協力及び分担や決まりごと等を理解できるよう支援している

カテゴリⅣ-3- (2) の講評

<p>子どもたちが自立に向け日常的な基本的な生活習慣が自然に身に付けられるよう援助している</p> <p>子どもたちが集団の中で主体的に過ごせるよう、全体的な生活時間を区切り、時間を自己管理できるように支援している。登所時の挨拶やおやつ、食事前後の挨拶などが日常的な習慣となるよう指導している。おやつ後の片づけは自分で行えるように指導し、手洗い場には正しい手の洗い方を掲示している。また、おもちゃなどの物を定位置に置くことで、子どもたちが同じ場所に片づけられるようになっており、子どもたちが日常生活に必要な基本的な習慣を身に付けられるように援助している。基本的な生活習慣が定着し、自立への一歩となるよう支援しているといえる。</p>
--

<p>集団で過ごす際の協力や分担、決まりごとなどについて理解を深めるための支援が行われている</p> <p>子どもたちが協力し合って学童クラブの生活を維持できるよう、集団で過ごす際の協力や分担、決まりごとなどについて理解を深めるための支援が行われている。班を決め、3年生を中心におやつ準備や片付けなどを行い、下級生も協力し合い、助け合う気持ちが育まれている。学期ごとに班メンバーを変え、話し合いにより班長を選出することで、集団内でのリーダーシップや協力の重要性を理解できる環境が整えられている。3年生を中心に班のメンバーと一緒に遊ぶこともあり、このような活動が下級生の良い手本となり学童内で受け継がれている。</p>
--

評価項目 IV-3- (3)

子どもが発達段階に応じた主体的な遊びや生活ができるように援助している

評点 (〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	① 日常の子どもの心身の状況を把握し、健康管理を適切に行っている
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	② 子どもの発達状況、家庭状況、学校での生活等を把握し、一人ひとりの心身の理解に取り組んでいる
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③ 制作活動や伝承遊び、地域の文化に触れる体験等の多様な活動や遊びを工夫している
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	④ 自由遊びにおいては、発達段階に応じた主体的な遊びにより、一人ひとりの力や意欲が引き出せるよう支援している
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	⑤ 遊びや各種活動を通して、自主性、社会性、創造性、協調性が育つよう支援している
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	⑥ あそべえや地域の公園等、学童クラブ以外の空間も活用し、子どもが快適に過ごす環境作りに努めている
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	⑦ あそべえ、コミュニティセンター、児童館等の行事に参加するとともに、校庭や公園等を活用し、子どもの遊びの範囲が広がるよう支援している

カテゴリーIV-3- (3) の講評

子どもや家庭状況を把握し、一人ひとりの心身の健康管理をおこなっている

登所時にクラブの受付の機で連絡帳を受け取りながら子どもの様子を確認し、健康面や学校での出来事が学童クラブに影響しないように声掛けを行い、職員間で共有している。状況に応じて学校や保護者とも連携し、健康管理に積極的に取り組んでいる。子どもの発達状況、家庭状況、学校での生活等を把握し、一人ひとりの心身の理解に取り組んでいる。発達状況や家庭環境については、児童調査票や個人面談で確認し、お迎え時などで保護者と会話することで理解を深めている。個人面談には半数以上の保護者が希望している。小学校とは月一回のミーティングで連携し、子どもたちの情報共有をおこなっている。

子どもの意見を取り入れた取り組みや遊び場の選択ができるようになっている

子どもたちの自主性や協調性が伸びるよう工夫された活動や遊びを提供し、成長するための環境づくりに力を注いでいる。3年生が中心となり主体的に関わる機会が設けられている。「何をして遊びたいか」などの話し合いが持たれ、ドッジボールやお楽しみ会のイベントに向けた取り組みが行われている。子どもの遊びの範囲が広がるよう自由時間に校庭開放の利用や、あそべえとの交流、またイベントに参加できるよう時間調整をして、多くの子が参加できるようしている。学校の向かいの公園に出かけたこともあり、人数が多い学童クラブでの努力が見られた。

自由あそびや活動の中で様々な体験ができるように発達に応じた支援をしている

子どもたちにけん玉、ベーゴマ、こま、百人一首などの伝統的な遊びを体験できるようにしている。また職員と一緒に楽しむことでやる気も生まれている。子どもたちの意欲が引き出せるよう段階を踏んで上達するように工夫され、級が上がる喜びも体験している。毎月の工作は季節に合ったもので、あまり時間がかからず出来上がるものを提供し、夏休みなどではじっくり時間をかけて作り上げるものを取り入れている。菓子の空き箱などが用意され、自由に遊べるよう支援するなど多様な体験を可能にしている。発達段階に応じた主体的な遊びが保障されている。

評価項目 IV-3-(4)		子ども同士の関係を豊かに作り出せるように援助している		評点 (〇〇〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	集団遊びにおいては、異年齢で、また、大勢で遊ぶ楽しさを共有でき、良い仲間関係が築けるよう支援している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	遊びや生活の中で生じる意見の対立やけんか等については、お互いの考え方の違いに気付くこと、葛藤の調整や感情の高ぶりを和らげることができるよう、関わりを通して相手を理解する姿勢と許容する気持ちや忍耐力を養うよう支援している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③	異年齢集団での班活動や当番活動の中で、他の子どもへの積極的な関わりを促し、友達や年下の仲間を思いやる気持ちを育てるよう支援している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	④	子どもの間でいじめ等の問題が生じないように配慮するとともに、万一、そのような問題が起きた時には早期対応に努め、保護者や学校と連携して適切な対応を行っている		
カテゴリーIV-3-(4)の講評				
異年齢の仲間づくりや集団遊びの楽しさを伝え、互いに尊重し合い協力して楽しく過ごせる環境を提供している				
子ども同士の関係を豊かにするために、学童クラブでは異年齢の仲間づくりや集団遊びの楽しさを伝える支援を行っている。ドッジボールやおにごっこ、大縄などの遊びでは、職員が一人である子にも積極的に声をかけて子どもたちの参加を促し、大勢で遊ぶ楽しさを伝えている。また、遊びや生活の中で起こる子ども同士の対立やけんか、考え方の違いは、成長に必要な経験として受け止め、自分で解決できるようにサポートしている。子どもたちが協力して遊ぶことの喜びを感じ、互いに尊重し合い、仲間として楽しく過ごせる環境を提供している。				
班活動は子どもたちの人間関係を豊かにし思いやりや協力、自立などの能力を育てている				
班は学年や性別、相性などを配慮した少人数で編成され、班ごとのポスターや役割分担表が室内に掲示されている。班長や上級生は当番の仕事をしたり、下級生の世話をしたりして、リーダーシップや優しさを身につけている。班ごとにゲームを選んで遊ぶ時間も設けられており、子どもたちが互いに仲良くなり、協力し合って楽しむ機会となっている。下級生は上級生の行動を見て日々学ぶことができ、上級生になった時に自然と同じように行動できるようになっている。				
子どもたちの関係性に日頃から注意を払い、いじめの兆候があればすぐに介入できるようにしている				
職員は、日頃から子どもたちの関係性に注意を払い、子どもたちの遊びや生活の様子を観察し、いじめの兆候や訴えがあればすぐに介入できるようにしている。職員同士で情報を共有し、学校とのミーティングでも子どもたちの状況を確認している。学校・家庭・学童クラブで連携し、必要な場合は話し合いの場を設けて問題解決に取り組むなど、職員は子ども同士が関係を豊かに作り出せるように援助している。				

評価項目 IV-3-(5)		子どもが自分の気持ちや意見を表現することができるように援助している		評点 (〇〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	人の話を聴く、自分の意思を伝える、相手の気持ちを受け止める等、人との関わりの中でコミュニケーションの力を培っていけるよう支援している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	学童クラブの決まりやルール、遊び等に子どもの意見を反映させ、考える力や自主的判断、表現する力が養われるよう支援している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③	一人ひとりの子どもの発達や子ども同士の関係を捉えながら適切に関わり、学年や成長に合わせた育成を行っている		
カテゴリーIV-3-(5) の講評				
<p>子どもが自分の気持ちや意見を言葉で表現できるよう、コミュニケーション力を培う支援をしている</p> <p>職員は、子どもが自分の気持ちや意見を言葉で表現することができるようにサポートしている。言葉が出ない子には「今どんな気持ち？」など、自分の言葉を見つけるためのヒントや質問を与え、自分の言葉を引き出して意思を伝えられるよう働きかけている。また、相手の気持ちや考えを聞き、理解して受け止められるよう子ども同士のコミュニケーションを助ける立場で接している。職員は、子どもが自分の言葉で表現し、友だちや大人と関わるができるようコミュニケーション力を培う支援をしている。</p>				
<p>子どもたちが意見や感想を積極的に発言し、決めることができるようにさまざまな取り組みを行っている</p> <p>3年生会議を行い、イベントや大会の企画・実施を行っている。子どもたちが意見を出し合い主体的にかかわって行事を行うことで、考える力や判断力が養われるよう支援している。また、17時と18時の集団帰りの前に毎日行っている帰りの会では、時間内に日直の班が自分たちでゲームを考えて遊ぶことが習慣となっている。子どもたちの意見を反映させ、主体的判断を養う機会となっている。集団ゲーム表を用意して、子どもが不安なく決められるように配慮もしている。</p>				
<p>子どもたちの想いや考えを表現できるように支援し、子どもの成長に合った関わり方を実践している</p> <p>職員は、子どもたちが自分の想いや考えを表現できるように助けている。今何がしたいのか、どんなことを考えているのか想いや考えをうまく表現できない子には、育成相談員のアドバイスなどを基に職員同士で話し合い、一人ひとりに合った適切な関わり方を考えて実践している。毎日就業前後のミーティングで、子どもたちの様子等を職員全体で共有し、子どもの成長に合わせた支援を行っている。</p>				

評価項目 IV-3-(6)		地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点 (〇〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	あそべえと円滑な協力ができるよう定期的な打ち合わせを行い、子どもの遊びをより豊かにできるよう連携している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	地域の人たちと広く交流を図り、運営の内容を適切に説明するとともに、地域の協力を得て連携して子どもを見守ることができるよう取り組んでいる		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③	新1年生については、子どもの発達と生活の連続性を保障するために、保育所・幼稚園等と子どもの状況について情報交換や情報共有を行っている		
カテゴリーIV-3-(6)の講評				
あそべえとは毎日のミーティングで情報共有し、月1回合同会議を行って連携を図っている				
毎日行っている学童クラブミーティングには館長も出席して、1日のスケジュールや遊びの内容、子どもたちの様子等を確認している。また、あそべえと学童クラブの合同会議を月1回開き、今後の予定や子どもたちの情報を共有して、子どもたちが安心・安全に楽しく遊べるように連携している。学童クラブの子どもたちは自由時間にあそべえのイベントに参加したり、来ている子どもたちと一緒に遊び、交流することができる。学童クラブはあそべえと一体となって子どもたちの生活の幅を広げるために努めている。				
地域子ども館推進会議で学童クラブ・あそべえの運営方針や活動内容を説明し、地域の協力を仰ぎながら子どもたちを見守っている				
地域子ども館推進会議を年3回開催し、地域の委員の方々と意見交換を行っている。この会議では、学童クラブやあそべえの活動内容を説明するだけでなく、地域の子どものことに関する情報や活動について情報共有し、地域の人たちから出された率直な感想や提案を取り組みの参考にしていく。また、地域のイベントの手伝いに向いて協力関係を築くよう努めており、地域の協力を得て連携して子どもを見守ることができるよう取り組んでいる。				
新1年生については子どもの状況や保育園等での様子を把握し、スムーズに学童クラブ生活へ移行できるよう配慮している				
新1年生については、入会前に保育園等を訪問して、子どもの状況を確認し、情報を共有している。訪問できないときには電話で情報共有を依頼している。学童クラブのクラス分けの際には、各保育園等から一人での入会となる子どもや少人数の子どもを同じクラスにするなど配慮しており、子どもの不安を和らげ、スムーズな学童クラブ生活への移行を促している。子どもの発達と生活の連続性に配慮し、集団生活の中で自分の意思で過ごしていけるよう仲間づくりや居場所づくりを支援している。				

サブカテゴリ-IV-4

固有の援助を必要とする子どもへの適切な育成支援

評価項目 IV-4- (1) 障害のある子どもの受入れの考え方を理解したうえで、受入れに努めている 評点 (〇)	
評価 <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	標準項目 ① 障害のある子どもの受入れの考え方を理解したうえで、受入れに努めている
評価項目 IV-4- (2) 障害のある子どもの育成支援に当たった際の留意点を踏まえ、育成支援を行っている 評点 (〇〇〇)	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	① 障害のある子どもの育成支援に当たった際の留意点を踏まえ、育成支援を行っている
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	② 障害のある子どもや発達上に課題のある子どもが、学童クラブでの生活を通して共に成長できるように見通しをもって計画的な育成支援を行い、それぞれの特徴や状況に応じた遊びや生活の支援を行っている
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③ 障害のある子どもや気になる子ども育成については、定期的に専門相談員に相談し、家庭、学校、関係機関等と連携し、子どもにとってより良い育成ができるよう努めている
評価項目 IV-4- (3) 特に配慮を必要とする子どもへの対応に当たって、関係機関と連携して適切な支援を行っている 評点 (〇〇)	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	① 特別な支援が必要な状況を把握した場合や、特に配慮を必要とする子どもへの対応にあたって、関係機関と連携して適切な支援につなげるよう努めている
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	② 虐待の疑いがある場合や、子どもや保護者に異変を感じた場合は、慎重かつ迅速に子ども家庭支援センター等に報告するとともに、連携した対応を図っている
カテゴリ-IV-4の講評	
入会前の観察、面談や入会審査会でのアドバイスを基に障害のある子どもを受入れている 障害児審査会で育成相談員の意見やアドバイスをもらい、その子に合ったかわり方を個別に検討し、受け入れている。新1年生の場合は、入会前に館長・職員が保育園等に行き、子どもの様子を確認し、配慮が必要な子どもの情報の聞き取りをしている。子どもの入会が決まったら、保護者と面談を行い、育成に関する留意点や要望を確認し、保護者と情報共有している。障害のある子どもの受入れの考え方を理解したうえで育成支援を行っている。	
障害児委員会や研修で学び、専門家からのアドバイスを基に、家庭や学校と連携して障害児の育成支援を行っている 月1回行われる障害児委員会では事例検討や育成支援の方法を話し合い、子ども協会主催の障害児育成に関する研修等で障害児の特性について学び、理解を深めている。年3回開催される障害児育成相談では、専門家から子どもたちの様子や支援員の接し方についてアドバイスを受けている。職員全員でケース会議を開き、対応の仕方を統一している。家庭とは学期ごとに保護者面談、学校とは学校ミーティングや担任との個別ミーティングを行っている。学校公開日には館長、職員が学校での様子を確認しており、家庭や学校と連携して支援できるようにしている。	
特に配慮を必要とする子どもへの対応にあたって、関係機関と連携して適切な支援を行っている 特に配慮が必要な子どもに対しては職員が気づいた時点で館長・主任に報告して話し合い、内容次第では学校や子ども家庭支援センターへ連絡して対応している。虐待を疑われる子どもを発見した場合は、虐待防止マニュアルに従い、速やかに学校、子ども家庭支援センター、事務局へ報告し、相談のうえ対応している。	

サブカテゴリーIV-5

適切なおやつを提供

評価項目 IV-5-(1)		放課後の時間帯におやつを適切に提供している	評点 (○)
評価	標準項目		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	補食となるおやつについては、放課後の時間帯に必要とされる栄養面や活力面を考慮し、内容や量、提供時間等を工夫し、子どもがおやつを楽しめるように配慮している	
評価項目 IV-5-(2)		食に伴う事故（食物アレルギー事故、窒息事故、食中毒等）を防止するための対応を行っている	評点 (○○○)
評価	標準項目		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	食物アレルギーのある子どもについては、おやつ提供にあたり配慮すべきこと、緊急時の対応等について事前に保護者と丁寧に連絡を取り合い、安全に配慮しておやつを提供している	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	窒息事故等がないよう、安全確認を徹底し、危機管理体制を整えている	
カテゴリーIV-5の講評			
<p>栄養やカロリー、味のバランスを考えたおやつを3種選び、おやつを楽しめるよう工夫して提供している</p> <p>「おやつ提供マニュアル」に基づき、職員は、補食としておやつを考え、購入した食品から栄養やカロリー、味のバランスを考慮したおやつを3種選び、麦茶と共にほぼ決まった時間に提供している。現在は感染症対策のため、果物の包丁でのカットも控えており、個包装の袋菓子を主に使用している。また、イベント時には特別メニューを提供したり、「おかわり」を配る際には、当番班が考えたゲーム性のある方法を採用するなどして、おやつを楽しめるようにしている。</p>			
<p>食物アレルギーのある子どもの事故を防止するため、保護者と情報共有し配慮の上対応している</p> <p>食物アレルギーのある子どもについては、「アレルゲン除去等申請書」と「診断書」を提出してもらい、入会前や年度当初に保護者と面談を行なっている。アレルギーの詳細や提供時に配慮すべきこと、緊急時の対応についても十分に確認し、安全に配慮しておやつを提供している。除去が必要な場合は、おやつ持参を依頼しており、持参したおやつの誤提供がないように、ダブルチェックで防止に努めると共に、定期的におやつ提供マニュアルを職員全員で確認し、提供の仕方を統一しており、また、職員全員でエビペン講習を行なっている。</p>			
<p>おやつ提供に伴う事故防止の管理体制を整え、子どもたちへの見守り、注意を徹底している</p> <p>事故が起こらないよう、おやつ購入時には安全に配慮した食品を選定し、配達後の賞味期限などを確認し、適切に廃棄するなど管理を徹底している。また、1グループに子ども5人程度の、職員が目が届くような機の配置で子どもたちを見守り、慌てて口の中へ詰込むことによる窒息事故や誤嚥事故防止のための注意を促している。正規及び嘱託職員全員上級救命の資格を有しており、窒息事故などに対応できる体制が整っている。今後は、その知識を確認する定期的な施設内研修の実施も望まれる。</p>			

サブカテゴリーⅣ-6

安全と衛生の確保

評価項目 Ⅳ-6- (1)		子どもの安全を確保する取組を行っている		評点 (○○○○○○)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	施設や遊具の点検整備を定期的に行い、安全性の確保に取り組んでいる		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	学童クラブでの生活や行き帰りにおいて自らの安全を守るための行動について学習し習得できるよう援助し、安全指導を行っている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③	子ども本人や他の子どもの危険と安全に対する判断力が養われるよう配慮している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	④	個々の子どもの通所コースを点検し、危険箇所等を子ども、保護者と共有することにより、通所時の安全を図っている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	⑤	学童クラブでの育成中の事故、病気、怪我や子ども同士のけんか等のトラブルが生じた場合は、関係する子どもの保護者へ連絡するとともに、状況に応じて保護者や関係機関と連携協力することにより、迅速な解決を図っている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	⑥	事故、犯罪、災害等から子どもを守るため、子どもの遊びや生活の環境及び帰宅時の安全等について、地域の人々の理解と協力が得られるよう努め、連携協力して子どもの安全を確保している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	⑦	子どもの病気やケガ、事故等に備えて、日常的に地域の保健医療機関等と連携を図っている		
評価項目 Ⅳ-6- (2)		衛生管理に関する取組を適切に行っている		評点 (○○)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	手洗い・うがいの励行により、衛生的習慣を身に付けられるよう支援している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	日々、施設や備品の清掃、おやつ等の衛生管理を行い、食中毒や感染症の発生の防止に努めている		
カテゴリーⅣ-6の講評				
<p>施設や遊具の安全点検、事故や怪我の対応、避難訓練など、子どもの安全確保に取り組んでいる</p> <p>育成前や校庭開放前に施設や遊具の安全点検を実施しており、修繕が必要な場所や物については優先的に修繕依頼を行い、一輪車については、3年に1回業者の保守点検を依頼している。育成中の事故やトラブルが発生した場合は、速やかに保護者に電話連絡を入れ、直接伝えている。怪我などで受診が必要と判断した場合は、かかりつけ医を確認し、ない場合は近隣の医療機関情報を保護者に提案し、連れていくこともある。事故内容については、事故報告書などで職員間での情報共有を行ない、子どもたちに危険や安全について、子ども自身が意識できるよう注意を促し、再発防止に努めている。緊急時対策として、あそべえと連携した避難訓練を年1回行い、設定や時間を変えて学童クラブだけの避難、不審者訓練を年3回実施している。訓練後に振り返りの時間を持ち、不備があれば改善し、災害などに備えてさらなる対策を検討しているが、さらに訓練の回数を増やすことが望まれる。</p>				
<p>保護者や地域の人々と連携し、帰宅経路における子どもの安全確保や子どもの安全意識獲得のための支援に取り組んでいる</p> <p>年度初めに、帰路点検を実施し、PTAが作成した安全マップを参考に、子どもたちの自宅や通学経路、「こどもを守る家」を全職員で把握している。その結果、職員は子どもたちの住所や帰宅経路を理解し、安全対策を講じることができる。また、入会説明会の際には、帰宅コースごとに集まり、子どもたちが一緒に帰るメンバーを知り、交流できるような機会を設定している。個人面談は、帰宅時の子どもたちの様子を保護者から聞く機会でもある。帰宅時に行う「帰りの会」では、帰路の注意事項や約束事について注意を促し、定期的に職員が帰路の見回りをし、状況を把握している。巡回パトロールや、防災・安全メールから市内の事件・犯罪情報を確認し、子どもたちに注意喚起している。地域子ども館推進会議では、地域の方に見守りの協力を依頼し、情報を共有し、地域で子どもの安全を見守る体制作りを行っている。</p>				
<p>子どもたちに感染防止などの衛生が的な習慣が身につくよう支援し、おやつなどの提供時には衛生管理に努めている</p> <p>施設や備品の清掃、消毒は、毎日職員が行い、衛生管理に努めている。登所時、トイレ使用后、おやつ前、遊び後の手洗いやうがい、ハンカチの携帯について、子どもたちに常に声掛けを行い、手洗い場には手の洗い方のポスターを貼って促している。また、気温や発汗に合わせた衣類の着脱の声掛けを行ない、子ども自身の衛生に関する意識を育てている。おやつ提供マニュアルに基づき、おやつや食事前には机などを消毒して衛生面に十分な配慮をしている。協会の系列保育園の保健師に依頼して衛生管理研修として嘔吐処理の方法を学び、各部屋に処理の必要物品を設置していつでも全職員が対応できるようにしている</p>				

サブカテゴリーIV-7

保護者・学校との連携

評価項目 IV-7- (1)		評点 (〇〇〇)
保護者との協力関係を築いている		
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	子どもの様子を連絡帳、クラブだより、保護者会などを通じて保護者に伝えるとともに、必要な個人面談を行う等、保護者との信頼関係を築き、家族と連携して育成できるよう取り組んでいる
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	子どもの日常の様子を把握し、友達関係や行動等、気になることが見られる場合には、その理由や子どもの気持ちなどをくみ取るとともに、保護者と連携を密にし、適切な対応を図っている
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③	保護者の信頼を得て身近な相談相手となれるよう努め、必要に応じて他の相談機関につなげている
評価項目 IV-7- (2)		評点 (〇〇)
学校との連携		
評価	標準項目	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	子どもの生活の連続性を保障するため、学校との連携を図っている
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	定期的に学校と情報交換を行うなど、連携を図っている
<p>カテゴリーIV-7の講評</p> <p>連絡帳やおたより、直接的な会話などを通じ、保護者に子どもの様子を伝え、共有している</p> <p>保護者との会話のツールとして連絡帳を重視し活用しており、クラブや家庭での様子を継続的に共有し、クラブだよりで子どもたちの日常の様子も伝えており、保護者は子どもたちの成長や活動について理解を深めることができる。保護者会は、年3回の実施を予定しており、来所だけでなく、ZOOMを活用したオンライン参加も可能としたことで、参加率が向上している。映像での子どもたちの様子紹介や遊び体験などにより、より具体的に子どもたちの生活を伝えている。今年度実施した親子イベントでは、学校の協力もあり、保護者同士、職員との交流を深めることができ、保護者からも好評を得た。個人面談では、子どもの様子や家庭の状況をさらに深く情報共有することができ、お迎え時の会話でも相談を受けることがあり、顔を合わせて話すコミュニケーションを通じて信頼関係を築いており、利用者調査でも感謝の意見が数多く寄せられている。</p> <p>子どもたちの状況を注意深く把握し、必要に応じて保護者に伝え、連携し対応している</p> <p>職員は、子どもたちの日常的な様子を注意深く観察し、友達関係や行動の変化を把握し、通常と異なる行動があった場合、職員から声をかけ、子どもの気持ちを尊重して状況を聞いている。また、子ども同士のトラブルに対しては、一人ひとりから事実確認を行い、公平な立場で話し合いを通じて解決を図り、子どもたちが納得できるように努めている。子ども同士の関係については、学校と情報共有することで理解が深まっている。一方で、遊びの時間などは3つの支援単位の枠を超えて活動する場面があるため、子どもたちの関係性や気になる点を全職員で情報共有している。このようなクラブ内での個々の子どもたちの状況については、必要に応じて迅速に保護者に連絡し、連携して対応を検討し、信頼関係を築いている。</p> <p>学校と行事予定や子どもたちの状況について情報共有し、より良い支援のために連携している</p> <p>主に館長が窓口となり、日常的に学校側と情報共有を行い、職員もその情報を共有し、授業に支障のない範囲で校庭や体育館を使用している。さらに、月に1回、校長、副校長、地域子ども館館長、学童クラブ支援員が参加して打ち合わせを行っている。行事予定や子どもについての情報を共有し、学校と相互理解を深めることで適切な支援につながっている。特に気になる子どもの様子や子どもたち同士のトラブルなどの細かい内容は、担任教諭と連携して情報共有している。今年度は、1、2年生の担任教諭との全体共有を実現し、個別に連携できる仕組みを作り上げている。また、職員は学校行事や地域の会議に積極的に参加し、学童クラブへの理解を高めている。</p>		

サブカテゴリⅣ-8

子どもの権利擁護

評価項目 Ⅳ-8- (1)		子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている		評点 (〇〇〇)
評価	標準項目			
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	①	職場倫理を具体的に明文化している		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	②	虐待等の子どもの心身に有害な影響を与える行為の禁止と早期発見について明確な規定を定めている		
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 非該当	③	職員による子どもの権利の侵害や虐待とみなされる行為の禁止について研修等を実施し、職員間で共有している		
<p>「学童クラブ育成指針」に明文化されている職場倫理を基に、育成支援にあたっている</p> <p>「武蔵野市学童クラブ育成指針」には、「学童クラブは、一人ひとりの子どもが尊重され、安心して過ごせる遊び及び生活の場である」という記載があり、「放課後児童支援員の役割」の項目では、職場倫理を自覚し、育成支援に取り組むことが明文化されており、この内容を基に日々の育成活動に取り組んでいる。さらに、令和5年4月に「武蔵野市子どもの権利条例」が制定され、子どもの権利に関する内容や権利を守るための役割、連携が具体的に明示されたことにより、職員はさらに子どもへの関わり方を考える機会を得て、意識の向上につながっている。</p>				
<p>虐待やネグレクトの兆候については、マニュアルに沿って関係機関と連携して対応をおこなっている</p> <p>職員は「武蔵野市学童クラブ育成指針」に基づいて、日々の育成支援の中で子どもたちの家庭環境を把握し、気持ちを汲み取る工夫をしており、虐待やネグレクトの兆候を感じた場合は「児童虐待防止マニュアル」に従い、子育て支援ネットワークなどの関係機関への報告に努めている。また、「武蔵野市子どもの権利条例」の内容には「子どもが安心して生きる権利」があり、その内容として、いじめ、暴力、虐待、体罰の防止などが載せられている。この条例に対応し、各学童クラブ代表者が参加する育成委員会では、子どもへの不適切な関わりに関する振り返りシートの作成を進め、職員の人権擁護意識を高める具体的な方法を検討している。</p>				
<p>「武蔵野市子どもの権利条例」について、全職員が研修を受け、内容について共有している</p> <p>「武蔵野市子どもの権利条例」について研修を行い、子どもの権利に関して全職員で学び、考える機会がある。学童クラブは「安心できる居場所」として子どもの権利を守る役割を果たしていると考えられ、連携・協力すべきことについても学んでいる。また、日常的な子どもへの接し方については、職員同士で意見を言い合える組織となっている。しかし、子どもへの注意の方法については、職員ごとに認識が異なることがあり、子どもへのより良い注意方法を確立する必要があると考えられ、定期的な会議などで考え方を共有することが望まれる。</p>				

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	Ⅱ-2	福祉人材の確保・育成
タイトル①	研修の内容や講師は、各施設の職員が協議し、職員の希望に基づいた研修内容を決定し	
内容①	<p>専門研修、館内研修、ブロック研修に力を入れ、職員に学びの機会を保障している。正規職員から臨時職員まで、一人ひとりが自身の専門性を深化させ、子どもたちの育成に寄与できるように、多様な研修を提供している。研修の内容や講師は、各施設の職員が協議し、職員の希望に基づいた研修内容を決定している。受講対象は、嘱託職員や臨時職員も含まれ、多くの職員が専門性を高める機会を得ている。これにより、職員は自身の関心や目標に応じて学習することが可能となり、その結果、職員のモチベーションの向上につながっている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	I-4	育成支援の質の向上への組織的・計画的な取組
タイトル②	アドバイザーや育成相談員が定期的に各施設を訪問し、育成支援の改善に向けた具体的な	
内容②	<p>アドバイザー制を導入し、職員の育成力を強化することに力を注いでいる。アドバイザーや育成相談員が定期的に各施設を訪問し、育成支援の改善に向けた具体的なアドバイスを提供している。彼らの豊富な経験と専門知識は、職員の育成力向上に大きく貢献している。子どもたちの発達に関する専門的な知識と経験を活用し、適切な育成支援を提供することが可能となっている。アドバイザーは元保育園長・児童館および地域子ども館館長の経験を持ち、育成相談員は臨床発達心理士等の資格を保有している。職員は自身の指導力を向上させることができ、子どもたちの育成に更なる貢献をすることができるようになっていく。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	Ⅳ-1	子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備
タイトル③	子どもの数と職員の数に適正に配置し、メインの職員を固定していることで、子どもたちに安	
内容③	<p>第1クラブと第2クラブは部屋が分かれており、第1クラブはさらにAとBにパーテーションで仕切られている。児童数の増加に対応して適正な支援単位を設定し、メインの職員を固定で配置している。子どもたちは一つの集団としてまとまりを持ち、職員との信頼関係を築き、安心できる環境で落ち着いた生活を送ることができている。第1クラブと第2クラブは隣接しているため職員同士の連携が密に取りやすく、子どもたちの様子を把握しやすい環境となっている。アンケートからも子どもや保護者の満足度の高さ、安心感、感謝の気持ちが窺える。</p>	

特に良いと思う点		
1	タイトル	班活動で子どもたちが協力して生活することを学び、上級生はリーダーとして班をまとめる経験をする中でそれぞれの子どもの成長が図られている
	内容	各部屋では子どもたちを5人程度のグループに分け、班が構成されている。子どもたちは少人数でより家庭的な環境で過ごすことができ、安心感を得ることができている。各班には班長が置かれ、皆で協力する活動を行っている。班長はおやつの準備などでリーダーシップを発揮し、日常の活動を円滑に進めるための役割を果たしている。責任感やリーダーシップ能力を身に付ける機会を得ることができている。子どもたちは役割を分担することで、チームワークや協力の精神を培うことができている。班活動は、下級生が上級生を見習い、良い経験を積むことで成長の機会を提供している。
2	タイトル	当該年度の課題点や目標について職員と話し合い、年間計画を策定している
	内容	中・長期的なビジョンを明確にした計画を策定し、それを踏まえた単年度の計画を組織的に行っている。当該年度の課題点や目標について職員と話し合い、年間計画を策定している。半期ごとに振り返りを行い、自己評価や見直しを実践している。定期的に全職員が課題や問題点を確認し、スムーズに改善活動につなげることができている。さらに、事業計画は子どもや保護者等に周知され、理解を促している。保護者会で年間で行う行事や保護者会・個人面談の日程などについて保護者へ伝えている。また、子どもたちには行事など中心となる学年(3年生以上)と会議を行い、行事について周知し、子どもたち主導で行事を進められるようにしている。
3	タイトル	保護者と協力関係を築いて育成支援に取り組み、保護者から高い評価を得ている
	内容	職員は、子どもたちの成長を見守るために、保護者との連携を重視している。今回行った保護者・利用者調査結果によれば、全体的な満足度は100%となっている。子どもの反応、遊びや活動の工夫、行事の満足度、育成内容の把握、相談体制など、信頼関係を築く要素の項目が高く評価されている。保護者から感謝のコメントも多くあり、職員の人数や待遇、個人の頑張りによることを心配する自由意見も出るなど、高い信頼を得ていることが窺えた。
さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	地域との連携を強化し、子どもたちが地域とのつながりを深めるための取り組みを継続していくことを期待したい
	内容	館長が地域の会議に参加し、地域との交流を図ることで学童クラブの存在が地域に認知され、地域との連携を深めている。地域のイベントや活動においても館長や職員が手伝いに出向き、地域との協力関係を築いている。学童クラブの子どもに対して地域のイベントを知らせ、積極的な参加を促し、子どもたちの地域への関心を高めるようにしている。一方で、学童クラブの児童数が多いことから、全体的に地域の行事への参加が難しい状況となっている。今後も地域との連携を強化し、子どもたちが地域とのつながりを深めるための取り組みを継続していくことを期待したい。
2	タイトル	施設内の安全管理と併せて、帰路についても安全対策を強化することが期待される
	内容	施設内の安全管理については、地域子ども館安全管理マニュアルや安全計画書を整え、安全安心な育成支援を積極的に行い、事故報告書やヒヤリハット報告書等で再発防止に取り組んでいる。帰路についての安全対策は、入会前に子どもが一人で登降所できることの確認を保護者に依頼し、年度初めの点検や保護者会での情報共有、子どもへの指導など、多岐にわたって行われている。現在行われている、地域との関わりを継続し、安全な子どもの帰路の確保に期待したい。
3	タイトル	大学生に対する情報提供や交流の場を設け、学童クラブへの理解を深め、将来的な人材確保につなげることを期待する
	内容	地域子ども館として、地域の方々との交流を深め、協力を得ている。地域子ども館推進会議等を通して、地域とのつながりを一層強化している。学校との情報共有も行っており、地域全体で子どもたちの育成を支えている。人材確保のために、養成学校等への広報活動を行い、新たな職員の確保を図っている。昨年度はインターンシップの受け入れ、今年度は大学の授業の一環として教育体験活動等の受け入れを行った。今後は、近隣の大学との接点を持つことで、大学生に対する情報提供や交流の場を設け、学童クラブへの理解を深め、将来的な人材確保につなげることに期待したい。